

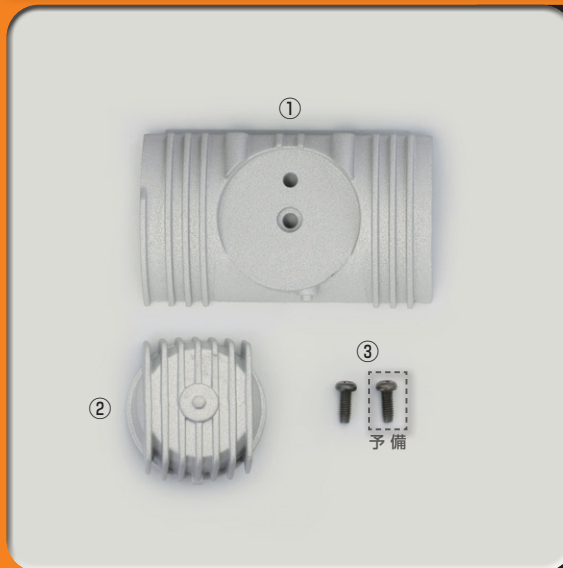
今号の作業

オイルフィルターケースを取り付ける



今号では、オイルフィルターケースをクランクケースCに取り付け、43号で組み立てたクランクケース下部・前面の開口部に取り付ける。このパーツは、不測の事態に対処するメンテナンス用ハッチになっており、脱着可能な構造が採用されている。

今号のパーツ



- ①クランクケースC×1
- ②オイルフィルターケース×1
- ③ビス(Eタイプ)×2
(※1本は予備)

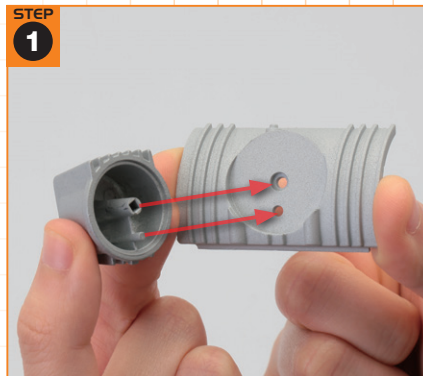
※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様異なる場合があります。

使用する道具

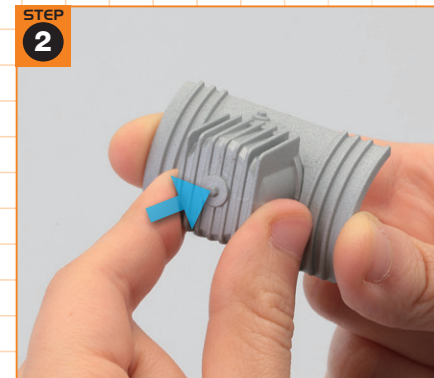
・+(プラス)ドライバー(1番)

用意するもの

・クランクケース(43号で組み立てたもの)



①クランクケースCと②オイルフィルターケースを用意し、オイルフィルターケース裏のピンとポスト(ビス穴が設けられている円柱状の突起)をクランクケース側にはめ込む。



オイルフィルターケースを真っ直ぐに押し込む。

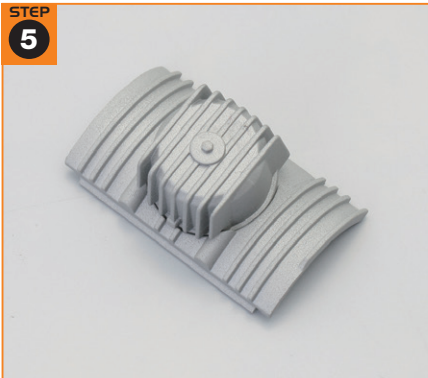


クランクケースCを裏返し、中央のビス穴へ③ビス(Eタイプ)をセットする。



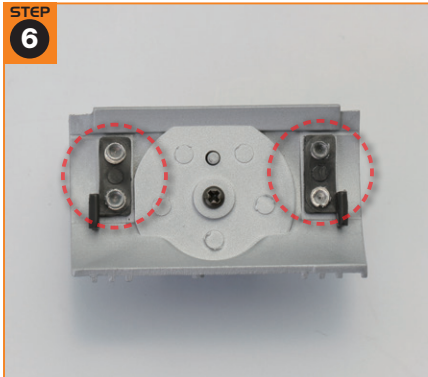
1番の+(プラス)ドライバーを使い、Eタイプのビスをねじ込んで、オイルフィルターケースを固定する。

STEP
5



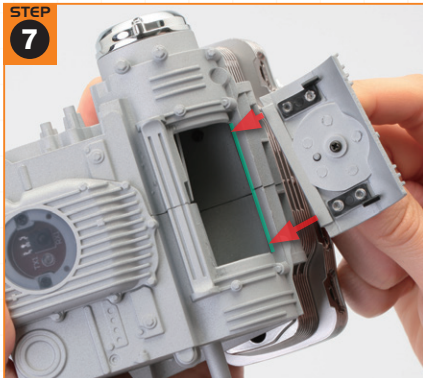
クランクケースCに、オイルフィルターケースを取り付けた状態。写真のようになっているか確認しよう。

STEP
6



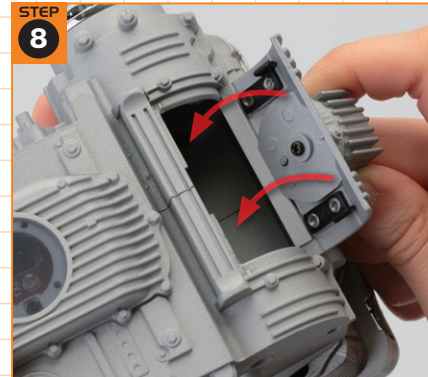
クランクケースC裏面の両側には、黒い樹脂製パーツが取り付けられている。これがクランクケース開口部への“取り付け用フック”だ。

STEP
7



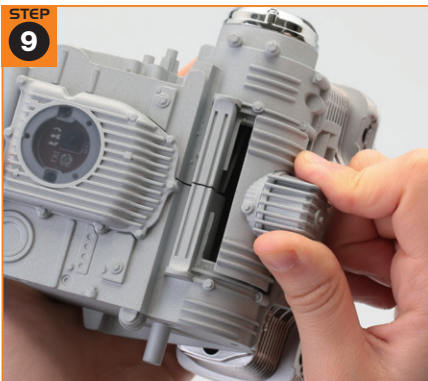
43号で組み立てたクランクケースを用意し、写真で示した位置にクランクケースCの端にあるプレート状の突起部を差し込む。

STEP
8



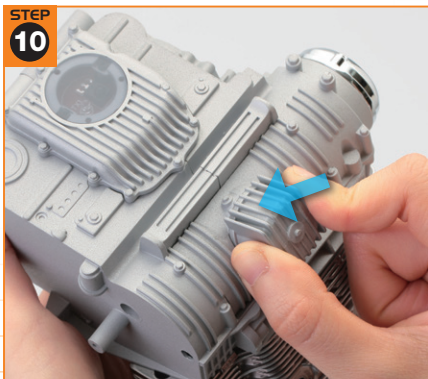
プレート状の突起部を差し込んだ部分を支点とし、クランクケースCを開口部へかぶせる。

STEP
9



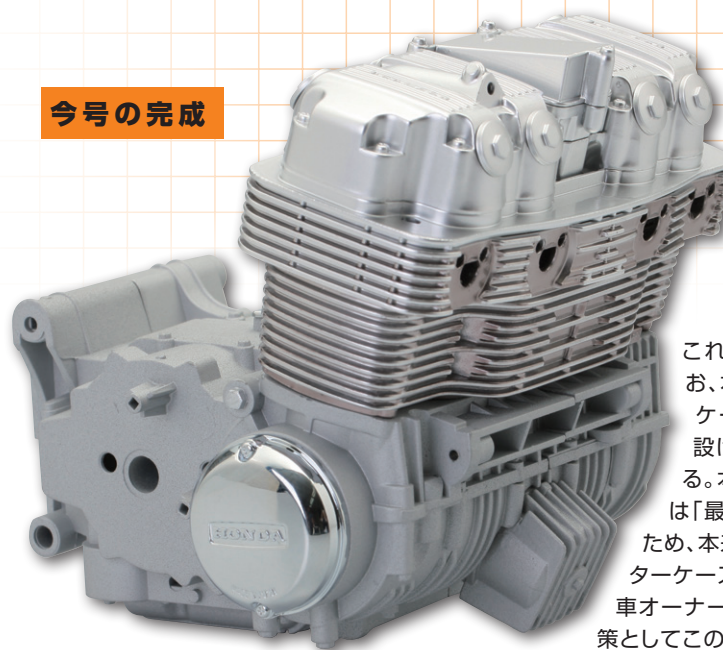
写真の位置までかぶせると、クランクケースC裏側の取り付けフックが引っかかる感触があるので、さらに押し込む。

STEP
10



オイルフィルターケース部分をつまみ、真っ直ぐに押し込んでクランクケースの開口部を閉じる。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。なお、本モデルのオイルフィルターケースは、表面に放熱フィンが設けられたタイプを再現している。本モデルのフレームナンバーは「最初期生産モデル」に該当するため、本来は“放熱フィンのないフィルターケース”が備わるのだが、当時の実車オーナーの多くが、オーバーヒート対策としてこのタイプに換装したことなどを考慮して、放熱フィン付きとした。組み立てたエンジンは、次回の作業に備えて大切に保管しておこう。